

永平寺町幼児園・幼稚園施設再編検討委員会 会議録（第3回）

日時	平成30年12月25日（火） 19:00～
場所	永平寺町役場 大会議室
参加者	委員：22名 オブザーバー：園長
協議事項	平成31年度幼児園・幼稚園入園予定園児数について 幼児園、幼稚園のあり方に関するアンケート調査の結果について

A委員：

アンケートの意図するところがよくわかりません。たとえばアンケートを取る場合はこういう目的があるからアンケートを取るのが普通ですが、再編の検討会のためにアンケートを取っているかたちです。本来ならアンケートでは今の保育園の姿がどうか、あるいはこういう面が非常に良いや悪いというような再編の目的がこのアンケートになっていると思います。内容を見ましてもたとえば「何人くらいからが不安と感じますか」に対して60人からとしています。本来町の人数から見ましても30人くらいの少ない園もあるわけです。また、行政は何を見たいのかというコメントが無いのでその辺りも必要だと思います。

このアンケートからたとえば今の保育園の状況をもう少しわかるようにしたら良かったと思いますし、その辺りの思いがあれば教えてほしいです。アンケートを見ますと、園の特徴や地域の特性によって若い世代や他市町からの転入が多い地域ということや、南の方に多いのは園児の半数以上が新しい団地出身の方、というように、地域の特性があるかと思しますので、行政もある程度その辺りのコメントをするべきだと思います。

委員長：

主に問9、人数について60人からというところに疑問を感じられたということです。松岡地区の実態にあっていないのではないかとということですが、事務局からお願いします。

事務局：

数字の結果の見解については、今後議論していただきたいと思います。アンケートの意図がわからないということについて問9の園児数の話がありましたが、このアンケートにつきましては、保護者対象ですので、人数については基本的に自分の子どもが該当する園に通っている、そして自分の子どもがいるクラスや同年齢が何人いるかは承知のことと思います。そういう実態や自分の子どもを見ていて何人くらいが多いか、保護者からはそういう結果から回答をいただいていると思います。回答された保護者がアンケートを見てもらい自分達の子どもの通っている園の姿と照らし合わせながら回答していただいたと理解していますし、私達はそういう傾向で見えていますので、いろいろな結果についてはそういう見方をしていただければありがたいです。

委員長：

60名以上というところで数字の上での印象を実際のクラスの子どもの数から考えて回答していただけているというご回答です。私から質問するのは違うかもしれませんが、その他の回答人数については回答される方がこの人数を書かれたということでしょうか。

事務局：

はいそうです。

委員長：

その他に回答された方は、その60人以上ではなくもう少し少ないほうがいいと思っている方が回答されたということによろしいですか。そうしますと保護者対象アンケート20ページの下、その他の回答に20人や30人という回答された方がこれだけいらっしゃったということです。私もパーセンテージにしてみました、全体は563で回答が多かったのが、30人に回答した46件で全体の8.2%だったかと思います。そして20人の回答をした32件は、全体の5.7%になるかと思います。100人以上で10.5%そこで少し少ない数字になっていると思います。

A委員：

私の見方は全体5百何名の中の32件は小さくて見づらいです。しかし、その32件がどの地域の方が回答したかによって見方は変わります。先生のおっしゃる全体の何パーセントだから少ないという見方ではなく、地区によって園の大きさが違う方々が回答しているわけですので、それに合わせて、この回答人数がどこに集中しているかという見方もしないと、たとえばその園の方が何に不安を感じておられるかという、たとえば小さい園だと当然その園より小さい数になれば不安を感じますし、大きい園だとその数が50、60になって当たり前であり、全体の園の中で何人くらいの割合が減るとどうなるかという数値も見ないといけないと思います。そういう面から見ますと、問3の分析の仕方で意味合いが変わってくると思いますので、その辺りを専門家も含めて分析しそれについてみなさんで論議しないと、なかなかアンケートの回答に関しての見方は大変でないかと思います。付け加えますとどうしても人数が先行したアンケートになっていると思います。たとえば良い点はどこかといいますと、子どもの情緒優しさ等は設問に入っていないし、設問の仕方も含め分析はしっかりするべきだと思っていますので、見解を出したうえで論議することが必要だと思います。

委員長：

ご提案がありましたのが、その他の回答を少ない人数で出されている地区の方、その他としてまとめるのではなく、少ない人数で回答された方の地区別の解析を加えていただけるとありがたいということです。

事務局：

分析のところでもう少し園別にしてほしいとか、クロスをしてほしいという要望として承ればよろしいですか。アンケートの設問に応じてこういうところをクロスしてほしいや、こういうところを出してほしいという要望をいただければ、それはアンケートから集計できますので業者のほうでしっかりと要望に答えた集計はできます。そのように理解してよろしいですか。

A委員：

毅然とした見方を付け加えないと、ただ数値だけを見ると大変ですし、そういう見方のコメントがないとおかしいのではないかとあえて言わせていただきました。この数字だけを出していただいても課題が大きいのではないのでしょうか。

委員長：

まさにおっしゃるとおりで、その他回答、たとえば30人で46件の方がどの園に通われている方が回答されたのかというのは結果の集計を見れば出せますのでまた次回、こちらについては追加で内訳を出させていただきます。

A委員：

たとえば24ページにしても、54ページにしてもその後についてはそれぞれの園の古さや規模によって回答も変わります。そういう分析もしないとただ数値だけでは課題もあるのではないのでしょうか。1つの例ですが私はそう思います。

委員長：

どの設問でどういう解析をしてほしいということを具体的に出していただければ、次回までにお答えできます。

A委員：

まとめてきます。

事務局：

アンケート調査についてのご質問がありましたので、アンケート調査の考え方についてご説明させていただきます。アンケート調査の中身ですが、たとえば最初のほうの質問で「どこの地域にお住まいですか」に関しては事実を記載する内容となります。ただ後半のたとえば「民営化についてイメージすることは何ですか」については意識調査になります。こちらはみなさんの体調やメディアの取り扱われ方で若干数値は上下するのがアンケート意識調査の常識ということになります。その中で委員がおっしゃられた老朽化が進んでいる園ではこういう結果ではないか、そういうアンケートの分析もできなくはありませんが、アンケートを分析する人間の意識が入ってしまいます。アンケート調査意識調査というのはある程度客観的に数値だけを見てみなさんの議論の材料としてどのように扱われるのか、議論の材料として扱っていただきたいというのが意識調

査の役割となります。たとえば51%の方が民営化に賛成でした49%がその逆でした。

では、51%民営化賛成なので民営化に進みましょうというものが意識調査ではありません。たとえば51%と49%でしたら数値の見方としてはおおよそ同じくらいというように見ていただきたいということです。数値を細かく見ていきますと、かなり全員がすべてを見返して回答して100%の回収率ではありませんので、そういうところでズレが出てくることもアンケート調査意識調査の怖いところです。ある程度ざっくりと遠目でアンケート調査を見ていただき、議論の1つの材料として扱っていただきたいということで、分析は客観的なところで文章として書かせていただいています。

B委員：

これは無記名ということですか。

委員長：

無記名でさせていただいています。

C委員：

大変なデータ処理ありがとうございます。アンケート結果も大事ですがアンケートをすることにより町民がより意識付けをするか考えるか、孫がいるか子どもいるかを抜きにして考えていくということだと思います。一言で言うと、子どもが減りどうするか、施設が古くなりどうするかということが出てきています。もう1つは民営化という言葉です。ハードもソフトも民営化なのかその定義がなかなか難しく、NPOのようにするのか利益追求型か、やがて幼稚園が義務化になってきます。もう1つは町づくりです。人口が減り衰退していきなかなか難しいですが、財力的にコンパクトにしていくか、だんだん財源が少なくなりますので住民サービスも十分に行き届かない、そういうことも考え合わせながら1つの参考資料として、本当は保護者や子どもの意見が大事だと思います。私はこれでだいたい勉強させていただいたと思っています。

D委員：

アンケート回収お疲れ様でした。この結果から見えてくる町民の課題や保育園が抱える課題、保護者の課題が浮き彫りになるかと思いますが、その辺りの深堀りというのは現状にプラスされないのでしょうか。たとえば17ページですが保護者対象欄で「再編する場合に充実してほしいサービス」ということで園の抱える人数の規模に応じてたとえば少ない園と、多い園では少なからずともサービスが充実していないという意見が見えていますが、もう少しなぜだろうという仮説を立てて、さらに住民に対して選択制で「こういう結果が出ましたがなぜですか」というような選択を再度とるといったことはしないのでしょうか。

事務局：

アンケートを取らせていただきまして、結果を受けて、単にこの検討委員会の議論の材料だけではなく、我々幼児教育を運営していく中において保護者がどう感じているかということもアン

ケート結果を通して見えたところもあります。たとえば16ページ「再編を実施する場合充実してほしいサービス」とありますが、再編を実施するしないを別にしても保護者が園に求める町に求めるサービスの充実というのは、これを見るとやはり大事だと分かりますし、逆にこれをもって再編しないからやらないのではなく、実際、子どもが園に通っているわけですから、その中でどれだけニーズに近づけていくか、結果については今後も町としてしっかり対応していかなければならないと認識しています。テンプレートにこのように数字がありますが、これは高いや低いとありますが、問8に関してはすべて当てはまれば良しとし、1つだけであれば「してほしい」ということですので、保護者が期待することについてはすべて丸をつけるということを理解すれば、園にとっては全体を見ながらしっかりと町の子育て支援の施策、また園ごとの行政という点ではこのアンケートの数字から見えてくるものをしっかりと捉えながら今後の子ども達のサービスに活かしたいという思いです。再編の数字だけを捉えている意味ではないと思っています。

E委員：

園児数について「少ないと不安に感じる」「多いと感じる」、いずれも60人以上や10人以下という結果が出ていますが、私はその他の人数にも注目したいと思っています。それと園児数については前回委員長から1つの基準として10人プラス10人というお考えを出されましたが、10プラス10ですから20人というのが1つの基準になるのでしょうか。またその基準をなぜ20人なのかというところも少し勉強していかなければならないと思いました。委員長は専門家でおられますので、あるべき人数の提案をされたと思いますが、一方で今回のアンケートで園児数について少ないという捉え方と多いという捉え方が出ていますので、少し我々も検討すべき課題かと思えます。もう1つ非常に大事なことですが、資料5「施設再編」と「民営化」について永平寺町が進む方向についてということで、非常に大事なみなさんのお考えをアンケートで出させていただきましたが、資料5は保護者と地域住民のアンケートを合算して数字を見ていますが、私は保護者の立場と地域住民の立場で施設再編そして民営化の捉え方は違うと思えます。それを合算して捉えるとその見方に誤りが出るのではないのでしょうか。

委員長：

20名という数字につきましては、私が20と申し上げましたが、その20については理想といえますか一般的な数のお話をさせていただきましたので、そのアンケートによって10人という数字が出てきましたのは永平寺町の実態の数字かと受け止めています。2つ目の資料5の合算することに意味があるのかという疑問が提示されましたがいかがでしょうか。

コンサル会社：

資料5はおっしゃっていただきましたとおり、あくまでも参考資料として提示をさせていただきました。保護者の立場からの割合は保護者アンケートの問15、問16、地域の立場からの割合は地域アンケートの問5、問4でお示しさせていただいているとおりです。あくまで今回の2種のアンケート結果を合算した結果とご理解いただければと思います。

委員長：

施設再編と民営化について合算したということに、何か意図があるのではないかとこのことですがいかがですか。

事務局：

経緯を申し上げますと、コンサル会社の分析結果については保護者対象のアンケート結果と地域住民の結果とそれぞれの結果をいただきました。参考ということで保護者アンケートについては、どちらにしても永平寺町の住民に対して行ったアンケートですので、対象は回答者1016人を全体としてどのような傾向があるか参考として作成してお示ししたということです。地域の方や保護者の合算した結果を提示しているものではなく、それを分けていると見えにくいこともありますので合算するところですよというものを参考に出しました。私が作った資料です。そういう中で認識いただければありがたいということで、先ほどの説明をしたもので、対象としては地域保護者それぞれにしたということです。

委員長：

それぞれ報告の中に地域そして保護者というものが示されていて、全体の住民としての反応や考えを知る参考のために合算されたということで、参考程度と受け止めていただきたいということです。

B委員：

今おっしゃった内容ですが資料4の5ページ問3「地域コミュニティの中心的な施設となり」と書いてありますが、私はここで地域住民からの視点はこういうことも考えて根底にあってのアンケート結果と取りました。地域住民としても幼稚園などはコミュニティの場所になりますので、こうあるのが望ましいというのが保護者プラス地域住民が入って化合されてこういった答えが出てきたように取りました。

委員長：

問3の結果が、地域と保護者の考えと捉えるということによろしいですか。

事務局：

保護者対象のアンケート設問と地域住民の設問はおのずと違った目線であると思います。ただ今回施設再編を検討するというので施設再編についての方向性はどうか。民営化については保護者についても地域住民についても同じように聞いていまして、同じ設問なので参考までに合算したということで作成したのもので、ご意見をお聞きしたいと思います。対象が違えば設問も変わってくると思います。

委員長：

合算した以外の設問はそれぞれのアンケート用に作成した設問ですので合算ができない状況もあ

り、同じ設問は参考に一緒にしたということです。

他にご意見等なければ、議題5については終わりたいと思います。先ほどA委員からありましたように、ご意見等ございましたら事務局へ連絡をお願いします。

コンサル会社：

この場でご意見をいただきました件につきまして、たとえば施設老朽化の状況や築年数によって回答の傾向が変わっているのではないかとか、園の規模やニーズにより求めるサービスに違いが出ているように見えているというご意見が出ていたと思いますが、こちらについては、今回いただいたご意見を元にした分析を引き続き進めていきます。委員長からありましたようにその他に気になる点がございましたら、事務局までご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。

委員長：

事務局へご意見をお寄せいただければ対応させていただくということです。議題6へ移ります。次回開催について事務局より説明をお願いします。

事務局：

今回は、1月29日火曜日の同じ時間場所をお願いします。前回私のほうから今後の進め方ということでお話しした中で、当初5回で行いたくなりましたが、今日まで第1回から3回で現状や結果というところで実施させていただきました。第4回からは具体的な方向性について、議論をお願いしたいと思います。当初ですと1月に実施しまして、次回には骨子案の検討となりますが、やはり今の傾向から検討いただきますと第5回で終わるといのはかなり拙速ではないかと思ます。そこで当初の第5回をもう1回追加しまして第6回まで是非お願いしたいと思います。予定ですが3月中に取りまとめまして、そして骨子案を上げたいと私どもは思っておりますので1月、2月、3月で開催して最終3月の第6回で骨子をまとめていきたいと思ます。29日からは実際の方向性について各委員さんと議論をお願いすることになります。

C委員：

アンケートの結果を見ますとあまり遠くへ通うのは大変だと、あまり結果を言うといけません松岡については、距離は短いし老朽した施設もあります。公平にしないといけません。通勤や通う距離、施設のこと子どものことを考えていただいて、なかなか進展しませんが少しだけ方向性やある程度具体的に子どものために、どれがよりベターか、ベストは難しいですが提案していただきたいと思ます。

委員長：

これで幼稚園・幼稚園施設再編検討委員会を終了させていただきます。